

# 東京経済大学報

2026年度  
第59巻 第1号

撮影：ハービー・山口（1973年卒） 場所：葵陵会館前



就任記念

# 対談

2026年6月就任

新理事長

八木 茂樹

2026年4月就任

新学長

小川 英治

2026年度、東京経済大学に新理事長・新学長が就任しました。伝統をどう受け継ぎ、これからの東経大をどう導いていくのか、就任間もないふたりが、率直に語り合いました。

## 生き残るのではなく、勝ち残る

### 新理事長・新学長が語り合った東経大のこれから

変わったもの、  
変わらないもの

——理事長は本学のご出身です。学生時代の思い出をお聞かせください。

**八木茂樹理事長(以下、理事長)** 現在建設中の「葵テラス(葵テラスEASTは2026年9月オープン予定、葵テラスWESTは2028年7月竣工予定)」あたりが正門で、立派な車寄せがありました。体育の授業は武蔵村山校舎まで行かなければならず、南門から正門に停まるバスに乗り遅れないよう駆け込んでいました。大変でしたが、今となつては懐かしい思い出です。

——卒業後、長い年月を経て理事長として戻りましたが、本学の変化をどのように感じていますか。

**理事長** 卒業後も東京経済大学役員や同窓会組織「葵友会(きゆうかい)」で定期的に大学を訪れていたことで、折に触れ変化を見てきました。6号館の完成をきっかけに国分寺キャンパス整備が進み、外観が大きく変わりましたね。何より、今はキャンパスに学生がしっかりと来ている、真面目な学生が増えたと感じています。

**小川英治学長(以下、学長)** まさにそうです。授業やゼミで接していて、机上の空論より、実際のデータや現象から「なぜそうなるのか」をしっかりと

り考える学生が多いと感じています。経済学部金融選抜プログラムや公共選抜プログラムで、実務家教員やOB・OGから直接学ぶ機会に高い関心を示す姿は、実学の精神そのものだと思います。

「生き残り」ではなく  
「勝ち残り」

——新体制発足にあたり、おふたりはどのような言葉を交わされましたか。  
**理事長** 学長とは理事を務めていた頃から2年間、理事会で一緒にしてきました。改まった挨拶などは特になく、自然な形でスタートでした。ただ、ビジョンは明確に共有しています。第3次中期計画策定段階においては生き残りのための基盤整備について議論されましたが、私は就任の挨拶で「生き残り」ではなく「勝ち残り」という言葉を使いました。18歳人口の減少という厳しい環境の中で、受動的に生き残るのではなく、

新理事長  
八木 茂樹

新学長  
小川 英治



能動的に選ばれる大学でありたいという思いです。

**学長** その「2030年問題」への危機意識には、私も強く共感しています。理事長の方向性を伺い、安心して大学運営に力を注げると感じました。経営を担うのが理事会で、教育の質を高め学生を育てるのが学長です。お互いの立場を尊重しながら、共に歩んでいきたいと思っています。

——第3次中期計画の「TKUビジョン2030—ひらかれた学びで、社会を動かす」には、どのような思いを込めましたか。  
**学長** 「ひらかれた学び」は、何かに縛られず自由な発想で探究できる環境のこと。「社会を動かす」には、学びを自己満足で終わらせず、社会

をよくすることを意識してほしい、という願いがこめられています。課題を見つけた先の、解決策を実装する力まで身につけてほしいのです。

社会に出る前に  
鍛えたい力

——学生のうちに身につけておいてほしい力がありますか。

**理事長** 私は公認会計士として仕事をしました。今やその試験にも英語の設問が出る時代です。専門職であってもボーダーレスな思考力とコミュニケーション力が最低限求められている。学生のうちにITスキルと実戦的な英語を鍛え、留学などでの異文化にも触れてほしいですね。

130周年に向けて、  
皆様へのメッセージ

——2030年、創立130周年に向けてどのような大学を目指しますか。

**学長** 一言で言えば「選ばれる大学」です。経済、経営、コミュニケーション、現代法の各学部が連携して、複

雑化する社会課題に領域横断で応えられる大学でありたいですね。  
**理事長** 私は、東京経済大学という名前が、信頼と実績の象徴として社会に刻まれ続けてほしいと願っています。

——最後に、読者の皆様へメッセージをお願いします。

**理事長** 卒業生の皆さんには、それぞれの場所で輝き、在学生の目標であっていただきたい。そして、在学生の皆さんは、AI時代だからこそ「考える実学」を大切にしてください。道具に頼るだけでなく、自分の頭で考え、納得のいく答えを導き出せる人になっていただきたいと思っています。

**学長** ご父母の皆様には、お子様の成長を長い目で見守っていただきたいです。4年間で、学生は目に見えて成長していきます。私たちはその成長を全力で支えてまいります。

八木理事長略歴

1961年4月岐阜県生まれ。1984年東京経済大学経営学部卒業。在学中に公認会計士試験に合格。卒業後は、学生団体への決算指導や同窓会組織「葵友(きゆう)会」の活動を通じて母校の発展に尽力する。1999年に葵友会理事および学校法人東京経済大学評議員に就任して以降、葵友会副会長、大学理事・監事を歴任。2022年6月より日本公認会計士協会東京会会長(～2025年6月)、同年7月より同協会副会長(～2025年7月)を務める。

小川学長略歴

1957年5月北海道生まれ。1981年一橋大学商学部卒業。1983年一橋大学大学院商学研究科修士課程修了。1986年同大学院商学研究科博士課程単位取得満期退学。1999年一橋大学より博士(商学)を取得。1986年一橋大学特別助手。1988年一橋大学専任講師、助教授を経て1999年から教授。2020年東京経済大学教授。2024年4月～2026年3月経済学部長。専攻は国際金融論。



# 挑戦する場所を、 自分で見つけた

インドの農家が抱える貧困の連鎖を、ビジネスの力で断ち切りたい。そんな大きな夢を胸に、アントレプレナーシップ養成プログラムで学ぶ経営学部2年の曾根勘司さんにお話を伺いました。

——東京経済大学に入学しようと思った理由と、プログラムに参加するまでの経緯を教えてください。

高校時代からインド農業の発展をテーマに研究をしていたので、経営学に精通した先生方が多い大学を選びたいと思っていました。そこで、合格後は複数の大学へ直接連絡を取り、「自分の活動ができる環境かどうか」を確認しに行きました。その際、まだ一般には公表されていなかったアントレプレナーシップ養成プログラムの新設を教えてくださいました。ここなら思い描く活動ができると思い、入学を決めました。

## 進学先は、自分の足で 確かめて決めた



経営学部2年 曾根 勘司さん

——仲間との対話が、視野を広げる

## 仲間との対話が、 視野を広げる

——プログラムに入って、予想と

インドへの関心は、出身地の江戸川区葛西で育ちました。インドの方が多く暮らす「リトルインディア」と呼ばれる地域で育ち、現地の食文化やお祭りに自然と親しんできました。そこから食の根幹である農業へと関心が向いていきました。

——インドの農業に着目したきっかけは、何ですか。

インドの零細農家は一人当たりの農地が非常に狭く、生産量が少ないため儲けも少ない。設備投資もできず、狭い土地で細々と続けるしかないという悪循環に陥っています。この課題を解決するために、私が考えているのは「疑似プランテーション」という仕組みです。土地の所有権は農家に残したまま、運営権だけを企業が担う形で農地を集約し、コストやリスクを企業がまとめて引き受けることで、農家に安定した収入を保証します。農家を個人事業主ではなく、会社員に近い形にしたいのです。

——最後に、大きな夢を持って入学してくる後輩へメッセージをお願いします。

「足を動かすこと」が何より大切だと実感しています。当時の区議会議員にメールし、直接会いに行ったり、

——最後に、大きな夢を持って入学してくる後輩へメッセージをお願いします。

「足を動かすこと」が何より大切だと実感しています。当時の区議会議員にメールし、直接会いに行ったり、

——最後に、大きな夢を持って入学してくる後輩へメッセージをお願いします。

「足を動かすこと」が何より大切だと実感しています。当時の区議会議員にメールし、直接会いに行ったり、

——最後に、大きな夢を持って入学してくる後輩へメッセージをお願いします。

「足を動かすこと」が何より大切だと実感しています。当時の区議会議員にメールし、直接会いに行ったり、

——最後に、大きな夢を持って入学してくる後輩へメッセージをお願いします。

「足を動かすこと」が何より大切だと実感しています。当時の区議会議員にメールし、直接会いに行ったり、

——最後に、大きな夢を持って入学してくる後輩へメッセージをお願いします。

「足を動かすこと」が何より大切だと実感しています。当時の区議会議員にメールし、直接会いに行ったり、

——最後に、大きな夢を持って入学してくる後輩へメッセージをお願いします。

「足を動かすこと」が何より大切だと実感しています。当時の区議会議員にメールし、直接会いに行ったり、

——最後に、大きな夢を持って入学してくる後輩へメッセージをお願いします。

「足を動かすこと」が何より大切だと実感しています。当時の区議会議員にメールし、直接会いに行ったり、

——最後に、大きな夢を持って入学してくる後輩へメッセージをお願いします。

「足を動かすこと」が何より大切だと実感しています。当時の区議会議員にメールし、直接会いに行ったり、

——最後に、大きな夢を持って入学してくる後輩へメッセージをお願いします。

「足を動かすこと」が何より大切だと実感しています。当時の区議会議員にメールし、直接会いに行ったり、

——最後に、大きな夢を持って入学してくる後輩へメッセージをお願いします。

「足を動かすこと」が何より大切だと実感しています。当時の区議会議員にメールし、直接会いに行ったり、

——最後に、大きな夢を持って入学してくる後輩へメッセージをお願いします。

「足を動かすこと」が何より大切だと実感しています。当時の区議会議員にメールし、直接会いに行ったり、

——最後に、大きな夢を持って入学してくる後輩へメッセージをお願いします。

「足を動かすこと」が何より大切だと実感しています。当時の区議会議員にメールし、直接会いに行ったり、

——最後に、大きな夢を持って入学してくる後輩へメッセージをお願いします。

「足を動かすこと」が何より大切だと実感しています。当時の区議会議員にメールし、直接会いに行ったり、

——最後に、大きな夢を持って入学してくる後輩へメッセージをお願いします。

「足を動かすこと」が何より大切だと実感しています。当時の区議会議員にメールし、直接会いに行ったり、

——最後に、大きな夢を持って入学してくる後輩へメッセージをお願いします。

「足を動かすこと」が何より大切だと実感しています。当時の区議会議員にメールし、直接会いに行ったり、

——最後に、大きな夢を持って入学してくる後輩へメッセージをお願いします。

「足を動かすこと」が何より大切だと実感しています。当時の区議会議員にメールし、直接会いに行ったり、

# 数字の向こうに、 現場が見えた

経営学部・三和雅史准教授のゼミで鉄道会社との共同研究に取り組み、「TKUデータサイエンスコンペティション」にも挑戦した遠藤海陽さん、大久保朋輝さん、岩崎徹平さんの3人に、研究の苦労や発見について語ってもらいました。

——チームで取り組んでよかった

## 3人だからこそ 乗り越えられた

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——三和ゼミを選んだ理由を教えてください。

遠藤 1年生の「情報リテラシー」の授業で、ITの用語を習うたびに知識が自分の中でつながっていく感覚がとても楽しくて。ゼミに入るなら、分かりやすく教えてくれる三和先生のところがいいと思いました。

——三和ゼミを選んだ理由を教えてください。

——三和ゼミを選んだ理由を教えてください。

——三和ゼミを選んだ理由を教えてください。

——三和ゼミを選んだ理由を教えてください。

——三和ゼミを選んだ理由を教えてください。

——三和ゼミを選んだ理由を教えてください。

——三和ゼミを選んだ理由を教えてください。

# 輝くTKU生 インタビュー vol.3

在学生のリアルな声！  
学生は日々何を学び、成長しているのか。  
在学生に東経大で得た経験や想いを伺いました。

## きっかけは、 授業の中にあつた

——三和ゼミを選んだ理由を教えてください。

## 鉄道会社との 共同研究

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった

——チームで取り組んでよかった



## 東経大のデータサイエンス

社会でデータサイエンスを活用する際に重要なのは、データが生まれる「背景」を理解することです。そのためには、AIが導き出した結論を鵜呑みにせず、社会科学の視点から批判的に検証する姿勢、「なぜそうなるのか」「人間社会にとって有益か」を考察する力、そして学部を超えた幅広い教養が必要です。東経大は、こうした思考力と教養を身につけ、AIやデータサイエンスを適切に活用できる人材を育成します。

対象 全学部・全学年 データサイエンス・スタンダード(DSS)

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それらを適切に理解し、活用するための基礎的な知識および技術を修得する教育プログラムです。

※データサイエンス・スタンダード(DSS)で得た基礎知識を、自らの専門分野に応用するための大局的な視点を獲得する「データサイエンス応用基礎レベル」も用意しています(経済学部・経営学部全学年対象)。



# 道を拓く力は、 大学時代に培われた

首都高速道路をはじめ全国の道路に導入が進む融雪技術で、100年の歴史を持つ世界道路会議の最優秀賞を受賞。今年4月には国土交通省の新技术導入促進計画にも採択され、3年以内に1,000箇所以上への導入が決定しました。

社会インフラを守る技術で国内外から注目を集める、株式会社太陽 代表取締役の阿部佳介氏。その歩みの原点には、東京経済大学での「文武両道」の日々がありました。

株式会社太陽 代表取締役

阿部 佳介 氏

東京経済大学

経営学部 1997年卒業

## 「文武両道」を 自ら選んだ理由

―数ある大学の中で、東京経済大学を選ばれた理由を教えてください。

ソフトテニスのスポーツ推薦で受験したのですが、当時の東経大はスポーツの実績だけでなく、試験と面接もきちんとある選考でした。実績だけで入れる大学のほうが楽だと考える受験生も多かったのですが、私は後々大変だろうなと思っていました。東経大が勉強面も重視して選考している

―大学時代で、今も印象に残っている経験はありますか。

ソフトテニス部の監督の存在が大きかったです。「テニスが上手いかどうか」ではなく、「社会人としてどうあるべきか」という目線で選手を見る方でした。卒業時のMVPに選ばれたのは、レギュラーではなかったけれど、授業にしっかり取り組み、教員免許を取得して卒業した選手でした。その選り方

が、私にはとても響きました。

また、合宿中に時事問題に関するレポート提出を求められたこともありました。部活動でレポートというのは珍しいと思いますが、「世の中のことを知りなさい」という監督からのメッセージでした。特に記憶に残っているのは、当時社会的な関心を集めていた住宅金融専門会社問題についてのレポートです。難しいテーマだったこともあり、ずいぶんダメ出しをされましたが、そうした経験を通じて社会情勢に関心を持つようになり、それが今の経営に生きています。「人に対して敬意と尊重を持ちなさい」という言葉も、今のコミュニケーションの土台になっています。

―学業面では、どのような学びが現在に役立っていますか。

ゼミでは竹内一夫先生のもとでアメリカのホワイトカラーの人事管理について研究したのですが、これが現在の組織運営に直結しています。人事管理のレポートで先生から高い評価をいただいたことも、大きな自信になりました。

## 突然の家業継承、 そして転機

―卒業後のキャリアについて教えてください。

最初は旅行代理店に入社しました。しかし、部活動での人脈を活かして関東大会などの団体旅行を手がけるようになり、業績も上がっていた矢先、実家の家業が急な危機に直面してしまつたのです。このままでは会社が立ち行かなくなるということで家族会議が開かれ、営業に向いている私がすぐに戻って支えることになりました。家族が一番大事ですから、迷いはありませんでした。

―家業に入られてから、どのようなステップを歩きましたか。

入社後は営業・現場監督・設計・経理・人事と、すべての部門を経験しま



▲「TAIYO SHEET\_RH」和紙とカーボンを複合した新素材。通電により面全体が均一に発熱し、主に融雪設備として活用されます。

した。大きな転機は、大規模修繕工事の下請けから元請けへ移行したことです。下請けでは実績も利益も残りません。元請けになるためにプレゼンテーション力と提案力を徹底的に磨きました。また、一つの事業に依存してはいけないという思いから、海外でも販売できる「商品」を持ちたいと考え、それが今の融雪事業につながっています。

## 社会課題を仕事にする

―現在の事業への思いを聞かせてください。

私は社会課題しか仕事にしないと決めています。建物のスラム化を防ぐ

―後輩へのメッセージをお願いします。

もし私がいま20歳に戻れるなら、学生のうちに起業してしまいますね。小さなことでいいんです。AIを使った資料作成代行でも、動画制作でも。スモールビジネスを実践すれば、大学の経営の授業と重なって、学びが一気に面白くなります。東経大の学生さんなら、金融や投資、お金の管理の知識もぜひ学んでほしいです。銀行に預けるだけではプラスにならない時代ですから、自分の将来は自分で守るという意識を持って、学業と実践を両立させていってください。

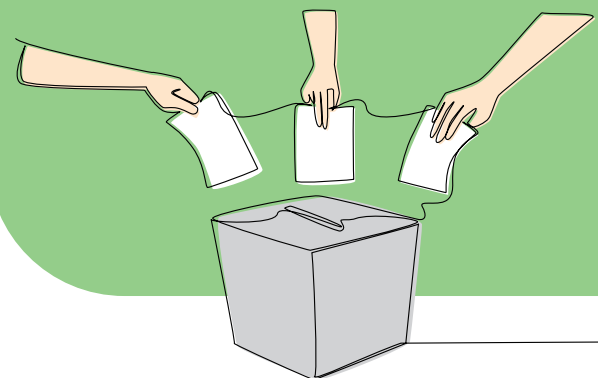
日本国憲法公布  
八〇年を前にして

「改憲」への主権者の決断――

今回教えてくれたのは

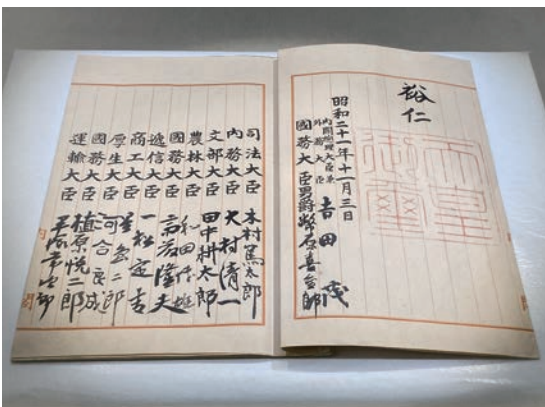
現代法学部教授  
大学院法学研究科委員長

加藤 一彦



日本国憲法は、一九四六年十一月三日に公布された。今年で八〇年目である。施行は半年後の一九四七年五月三日。来年は、八〇周年記念行事が多く集行われることであろう。十一月三日の日付は、旧憲法時代では天長節（明治節／明治天皇の誕生日）と呼ばれていた日である――今では「文化の日」である。憲法公布日と天長節が同じなのは、偶然ではない。意識的に吉田首相が、大日本帝国憲法と日本国憲法との連続性にこだわったからにはかならない。日本国憲法は、新憲法の制定ではなく、大日本帝国憲法の改正憲法として描き出されたからである。

しかし、両者の憲法間には法的連続性はなく、むしろ断絶している。というのも天皇主権から国民主権への転換は、憲法改正の守備範囲に収まら



期が近づいたとき、非常時に選挙などできるわけがないといい、国会議員の任期延長も検討されている。

改憲は、根本を変更することを意味する。憲法改正は、全面改正と部分改正の二つがある。全面改正を主導してきたのが自由民主党である。二〇一二年に公表された自由民主党による「日本国憲法改正草案」は、全面改正の草案である。ただ、この草案は極めて評判は悪く、お蔵入りした。もっとも、改憲政党として誕生した自由民主党は、憲法改正にこだわり続けている。現在、衆議院憲法審査会では、部分改正を目指して条文作りが始動してきている。

現状を眺めてみると、二つの条項の改正が論議されている。第一に、憲法九条の改正である。「戦争の放棄」を放棄し、自衛隊を「国防軍」に改め、その根拠を憲法に明示する点である。ただ「国防軍」とするには国民の拒絶感があるため、自衛隊の名称を使いつつ、自衛隊を憲法上位置づけることも視野に入っている。自衛隊の合憲性について、現在でも最高裁判所が判断を回避しているため、その決着はついていない。そこに改正の必要があるとみているようである。

第二に、緊急事態条項の新設である。日本国憲法の下、非常時に対処できる法体系は整備されているが、「もっと大変なことが起きたらどうするのだ」という声が次第に大きくなっている。具体的には、国会召集が可能なほどの非常事態が発生したとき、内閣が緊急政令を制定し、国民の権利を制限することが必要だといわれている。また衆議院・参議院議員の任

期が近づいたとき、非常時に選挙などできるわけがないといい、国会議員の任期延長も検討されている。

ここでは、次のことを指摘しておく。大半の国民が自衛隊の存在を肯定し、自衛隊の人命救助・災害救援活動に敬意を払っており、特段憲法上、改めて自衛隊の法的根拠を問いたくない。改めず必然性はないであろう。緊急事態条項については、すでに憲法五四条二項に参議院の緊急集会規定があり、この条項によって緊急事態における法律制定・予算の議決は、カバリーできる。緊急集会が開けないほどの非常事態も考えられるとすれば、それは原爆投下による首都圏・関西圏消滅、あるいは隕石衝突による国家滅亡の危機のことであろう。良識をはたらかせれば、こうした極論に付き合う必要はあるまい。人間の認識には限界があり、すべてを法に書き込むことはできないからである。

主権者の特権  
ラスト・ワードは自分で決める

衆議院と参議院の三分の二以上の賛成によって、憲法改正の国会発議が行われ、改正草案が国民に公表される。発議後六〇日から八〇日以内に、国民投票が行われ、有効投票の過半数の多数で改正が成立する（憲法九六条）。憲法が今まで改正できなかったのは、この高いハードルが、歯止めともなっていたからである。現在の国会議席状況を見れば、いわゆる護憲派政党は少数派であり、三分の二の値は、さほど高い

ないからである。ポツダム宣言受諾によって法的意味の革命が生じ、その結果、新憲法が新たに制定されたという見方が、通説的理解である（宮沢俊義教授の八月革命説）。

では、日本国憲法はどのような特質をもつのだろうか。高等学校までの社会科の勉強でも、憲法の三つの柱として、①国民主権主義、②基本的人権尊重主義、③平和主義が教えられたはずである。この三本柱は、憲法前文に明示されている。これらの憲法原則は、憲法十三条に定める「すべて国民は、個人として尊重される」という一点に収斂される。日本憲政史上、初めて個々の「個人」が法的主体であること、個人から構成される社会が大切であること、個人がそれぞれ自由に生き、これを各人が尊重しあう社会を作り上げることが、日本国憲法の約束である。

## 憲法改正の試み

この約束は、十八世紀後期の近代立憲主義を作り上げたフランス、アメリカの憲法思想に直結する。憲法九七条一項が「この憲法が日本国民に保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であつて、これらの権利は、過去幾多の試練に堪へ、現在及び将来の国民に対し、侵すことのできない永久の権利として信託されたものである」と定めたのは、日本国憲法が文明としての近代立憲主義に接続したことを表している。そう、人類の最高英知としての個人主義が、一九四六年にこの極東の果てまで伝播したのである。

憲法は国家の根本法である。憲法

脈々と続く人類の文明智に私は賭けている。戦後民主主義者の矜持をこの老教授は保っているからである。



## 現代法学部生限定

## 公務員志望者支援プログラム

国家公務員や地方公務員、警察官や消防官をめざすプログラムです。要件を満たした学生が2年次2期から所属し、公務員試験対策を目的としたCSC講座※を受講料全額免除で受講できるほか、個別面談にも対応し、公務員志望者をサポートします。

※CSC講座とは、資格取得指導に定評ある専門学校の講師のもと、学内でダブルスクールができる講座です。

2年次  
11月

## プログラム支援・開始

CSC「公務員基礎講座」を受講（受講料を大学が全額負担）

3年次  
4月

## オフキャンパスレクチャー開始

## 国家・地方

CSC「公務員総合講座（全講座）」を受講（受講料を大学が全額負担）  
または提携専門学校の講座を受講（受講料を大学が全額負担）

## 警察・消防

CSC「公務員総合講座（数的処理+教養）」を受講  
（受講料を大学が全額負担）

オフキャンパスレクチャー  
受講者主要内定先一覧（2025年度実績）

**国家公務員** 国家一般職5名／裁判所事務官／国税専門官  
**地方公務員** 特別区6名／埼玉県庁2名／昭島市役所／柏市役所／  
国分寺市役所／立川市役所／東京消防庁／西東京市役所／  
府中市役所／山梨県庁

# 2026年度 / 入試結果報告

入試課長  
橋本 博一

## 2026年度入試 私立大学志願状況

全国私立大学の2026年度一般選抜(共通テスト利用方式を含む)志願状況は、前年比109.8%で2年連続の志願者増となりました。

2026年度志願状況の特徴として、次のようなことが挙げられます。①「国公立離脱組」の参戦と収容定員厳守のための合格者絞り込みで大規模大学の合格ライン上昇、②私立大学全体の「2月の入試」の難化で「3月の入試」も全国的に大幅増、③「安全志向」で受験生1人当たりの出願数が増加。

また、年内入試へのシフトの進行で、総合型・学校推薦型で合格できない受験生が増加し、一般選抜への準備不足もあり、実力相応校・安全校に手厚く出願した傾向もあります。

(豊島継男事務所)2026年度一般選抜志願状況レポート最終

# 2025年度 (2026年3月卒業生) 就職状況報告

キャリアセンター長  
池本 晋也

## 2025年度の就職環境

新卒者の就職動向を予測するための指標として活用されているリクルートワークス研究所の調査には、2026年3月卒業の大学生大学院生対象の大卒求人倍率は1.66倍と、前年の1.75倍より0.09ポイント低下」との記載がありました。低下したとはいえ、求人倍率からは企業側の採用意欲が堅調であることがうかがえますが、従業員規模や業種によって大きな差がみられました(大卒求人倍率の推移についてはグラフ2、一番下の折れ線参照)。

## 2025年度のキャリア支援

多くの企業がインターンシップ等での接点を起点とした早期採用活動を行っているという現状を踏まえ、インターンシップ等への参加を促す支援を強化しました。特に例年3年次の4月～12月にかけて全6回開催してきた「就職ガイダンスを、回数はそのままに期間を大幅に短縮(4月～6月の3ヵ月)して開催する等、夏季インターンシップ参加のための選考スケ

報「より」

## 本学の2026年度入試結果

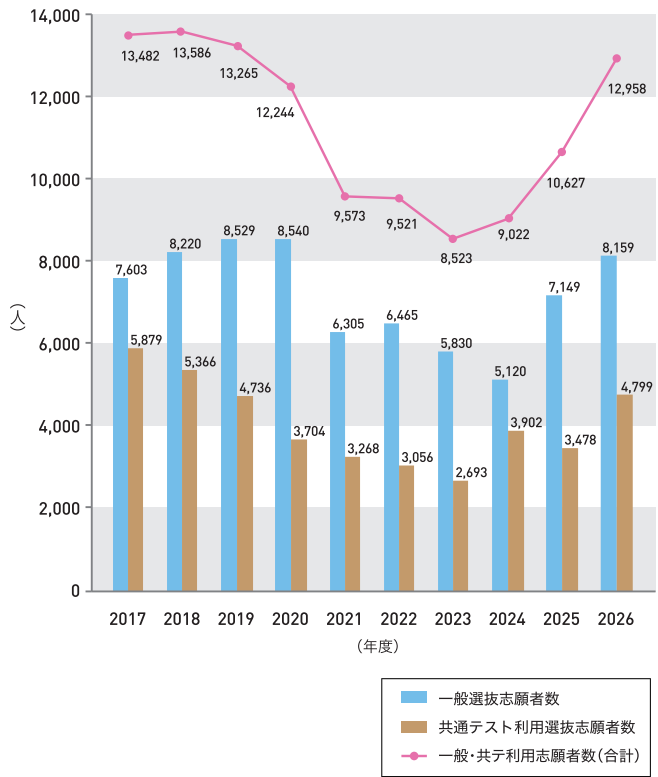
このような入試環境の中、本学の2026年度入試(第一次対象)の総志願者数は表1のとおり、14,081人(前年比119.6%)。内、一般選抜・共通テスト利用選抜の志願者数は、12,958人(前年比121.9%)、その他(総合型・学校推薦型)の志願者数は、1,123人(前年比98.2%)でした。

一般選抜・共通テスト利用選抜

表1 志願者数2カ年比較

| 入試区分            |        |    | 教科型     | 2025年度 | 2026年度 | 前年比    |        |
|-----------------|--------|----|---------|--------|--------|--------|--------|
| 一般選抜            | 個別方式   |    | 3教科型    | 3,284  | 3,709  | 112.9% |        |
|                 |        |    | ベスト2プラス | 2,519  | 2,776  | 110.2% |        |
|                 | 全学統一方式 | 前期 | 2教科型    | 625    | 773    | 123.7% |        |
|                 |        | 後期 | 2教科型    | 721    | 901    | 125.0% |        |
| 共通テスト利用選抜       |        |    | 前期      | 3教科型   | 2,131  | 2,635  | 123.7% |
|                 |        |    |         | 2教科型   | 1,067  | 1,782  | 167.0% |
|                 |        |    | 中期      | 4科目型   | 133    | 207    | 155.6% |
|                 |        |    | 後期      | 3教科型   | 147    | 175    | 119.0% |
| 一般・共テ 計         |        |    |         | 10,627 | 12,958 | 121.9% |        |
| その他(総合型・学校推薦型)計 |        |    |         | 1,144  | 1,123  | 98.2%  |        |
| 合計              |        |    |         | 11,771 | 14,081 | 119.6% |        |

グラフ1 本学一般選抜・共通テスト利用選抜志願者数推移



が定着したことが考えられます。また、過去10年の一般選抜・共通テスト利用選抜志願者数推移はグラフ1のとおりです。コロナ禍で実施できなかった本学の強みである対面広報の復活及び広報課との連携が強力に発揮できていると考えています。

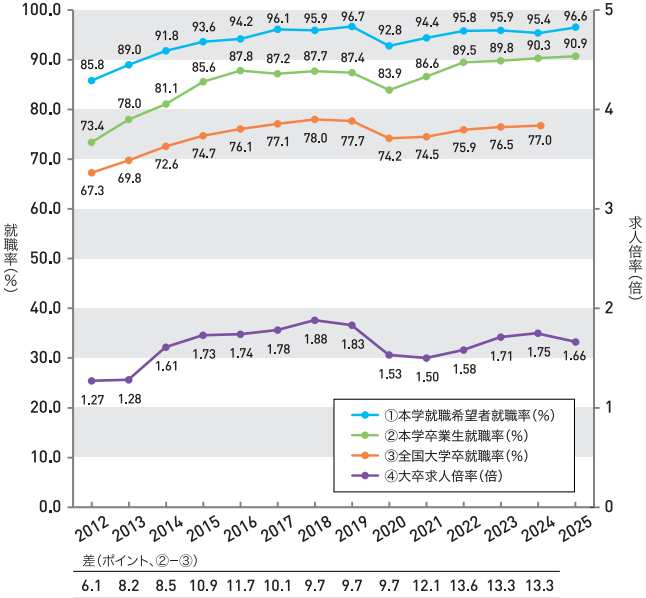
## 大学入試環境と本学の対応

本学では、入学検定料の極端な割引制度や追加出願無料制度は設けていません。また、文部科学省の指針(大学

入学者選抜実施要項)では、学力検査(教科科目に係る個別テスト)の試験期日は2月1日以降と示されていますが、これを遵守せず、年内に総合型や学校推薦型として併願可能な学力検査を行う大学が増えています。本学では、学力検査の本来の意義を重視し、指針を遵守した入試を実施しています。

本学では、高等学校等の声を聞きながら、本学らしい誠実な入試制度を引き続き検討・実施してまいります。

グラフ2 本学就職率・全国大学卒就職率・大卒求人倍率推移



① 本学就職希望者就職率: 該当年度3月卒業生 3月31日時点の数値、就職決定者数/(進路判明者数-就職を希望しない者の数)  
② 本学卒業生就職率: 該当年度3月卒業生 3月31日時点の数値、就職決定者数/卒業生数  
③ 全国大学卒就職率: 文部科学省学校基本調査、該当年度の就職者数/全国の大学学部卒業生数 ※例年12月に公表  
④ 大卒求人倍率: リクルートワークス研究所調査、求人総数/民間企業就職希望者数

## 「ビズリーチ・キャンパス」登録依頼

平素より、在学生支援にご協力いただき誠にありがとうございます。世の中に膨大な情報が溢れる中、社会で活躍する卒業生から直接得られる情報の重要性が増していることから、学生の職業観形成や業界・企業理解の促進を目的としてOB/OG訪問プラットフォーム「ビズリーチ・キャンパス」(https://obog.br-campus.jp/)を導入しました。導入から約1年が経過した今(26年5月現在)、約300名の卒業生に「ビズリーチ・キャンパス」に登録いただき、OB/OG訪問を受け付けていただいております。

学生自身が知らず知らずのうちに作り上げる天井意識を壊すためには、社会で活躍される先輩方からお話を直接伺うことが最も効果的であると考えています。本取り組みにご賛同いただける方は、OB/OG訪問対象として「ビズリーチ・キャンパス」へご登録いただけますと幸いです。

詳細は東京経済大学公式サイト、キャリアセンターのページをご覧ください。

https://www.tku.ac.jp/career/cc/alumnus\_bizreach.html

お問い合わせ先  
ビズリーチ・キャンパス運営事務局  
E-mail support@br-campus.jp  
東京経済大学 キャリアセンター  
TEL 042-3258-7750 E-mail cc@s.tku.ac.jp

FAQ

東京経済大学公式サイトのカリヤセンターページには、より詳しい内容を記載しています。

- Q 「ビズリーチ・キャンパス」を使ったOB/OG訪問はオンライン対応のみですか?  
A はい。オンライン対応のみです。
- Q 学生からの訪問依頼には全て対応する必要がありますか?  
A 訪問依頼に対して、対応可否をご判断いただけます。
- Q 「ビズリーチ・キャンパス」に登録後、学生からの訪問依頼受付を停止できますか?  
A プロフィール画面から公開状態を「非公開」とすることで、学生側からプロフィールが閲覧できなくなり、新しい依頼を停止することができます。プロフィールを「公開」に設定し直せば、依頼の受付を再開することができます。※プロフィールを「非公開」としていても、すでに依頼を承認した学生とは、変わらずメッセージをやりとりできます。
- Q 登録したプロフィールは誰が閲覧できますか?  
A ビズリーチ・キャンパスに登録している学生のうち、東京経済大学在学中の学生のみがプロフィールを閲覧できます(ただし、学生からの訪問依頼を承認するまで、学生の画面には卒業生の氏名は表示されません)。
- Q 登録後に、ビズリーチやその他企業から(OB/OG訪問に関係のない)営業メールが届くことはありますか?  
A ビズリーチやビズリーチ・キャンパスの利用企業からの連絡はありません。「訪問依頼」以外の連絡内容として、サービスの改修や、イベントへの協力案内、キャリアに関するアンケートの依頼が届く場合があります。なお、設定画面より、メールの受信拒否設定を行うことができます。

2026年度予算

事業活動収支予算書

2026年4月1日から2027年3月31日まで（単位:千円）

| 科目        |               | 2026年度予算    | 2025年度予算   | 増減         |          |
|-----------|---------------|-------------|------------|------------|----------|
| 教育活動収支    | 収入事業の活動       | 学生生徒等納付金    | 7,401,137  | 7,426,599  | △25,462  |
|           |               | 手数料         | 244,013    | 243,135    | 878      |
|           |               | 寄付金         | 46,600     | 44,720     | 1,880    |
|           |               | 経常費等補助金     | 1,425,292  | 1,429,360  | △4,068   |
|           |               | 付随事業収入      | 89,317     | 54,107     | 35,210   |
|           |               | 雑収入         | 222,925    | 202,388    | 20,537   |
|           |               | 教育活動収入計     | 9,429,284  | 9,400,309  | 28,975   |
|           | 支出事業の活動       | 人件費         | 4,549,732  | 4,454,989  | 94,743   |
|           |               | 教育研究経費      | 4,121,784  | 3,937,559  | 184,225  |
|           |               | 管理経費        | 623,016    | 537,644    | 85,372   |
|           |               | 徴収不能額等      | 0          | 0          | 0        |
|           |               | 教育活動支出計     | 9,294,532  | 8,930,192  | 364,340  |
|           | 教育活動収支差額      |             | 134,752    | 470,117    | △335,365 |
| 教育活動外収支   | 収入事業の活動       | 受取利息・配当金    | 312,000    | 343,000    | △31,000  |
|           |               | その他の教育活動外収入 | 0          | 0          | 0        |
|           |               | 教育活動外収入計    | 312,000    | 343,000    | △31,000  |
|           | 支出事業の活動       | 借入金等利息      | 0          | 0          | 0        |
|           |               | その他の教育活動外支出 | 0          | 0          | 0        |
|           |               | 教育活動外支出計    | 0          | 0          | 0        |
|           |               | 教育活動外収支差額   | 312,000    | 343,000    | △31,000  |
| 経常収支差額    |               | 446,752     | 813,117    | △366,365   |          |
| 特別収支      | 収入事業の活動       | 資産売却差額      | 382,828    | 110,456    | 272,372  |
|           |               | その他の特別収入    | 7,782      | 58,195     | △50,413  |
|           |               | 特別収入計       | 390,610    | 168,651    | 221,959  |
|           | 支出事業の活動       | 資産処分差額      | 7,857      | 20,414     | △12,557  |
|           |               | その他の特別支出    | 0          | 337,751    | △337,751 |
|           |               | 特別支出計       | 7,857      | 358,165    | △350,308 |
|           |               | 特別収支差額      | 382,753    | △189,514   | 572,267  |
|           | 【予備費】         |             | 10,000     | 10,000     | 0        |
|           | 基本金組入前当年度収支差額 |             | 819,505    | 613,603    | 205,902  |
|           | 基本金組入額合計      |             | △1,333,054 | △1,865,478 | 532,424  |
| 当年度収支差額   |               | △513,549    | △1,251,875 | 738,326    |          |
| 前年度繰越収支差額 |               | △1,025,229  | 226,646    | △1,251,875 |          |
| 基本金取崩額    |               | 0           | 0          | 0          |          |
| 翌年度繰越収支差額 |               | △1,538,778  | △1,025,229 | △513,549   |          |
| (参考)      |               |             |            |            |          |
| 事業活動収入計   |               | 10,131,894  | 9,911,960  | 219,934    |          |
| 事業活動支出計   |               | 9,312,389   | 9,298,357  | 14,032     |          |

資金収支予算書

2026年4月1日から2027年3月31日まで（単位:千円）

| 科目          | 2026年度予算   | 2025年度予算   | 増減        |
|-------------|------------|------------|-----------|
| 収入の部        |            |            |           |
| 学生生徒等納付金収入  | 7,401,137  | 7,426,599  | △25,462   |
| 手数料収入       | 244,013    | 243,135    | 878       |
| 寄付金収入       | 52,382     | 100,915    | △48,533   |
| 補助金収入       | 1,425,292  | 1,429,360  | △4,068    |
| 資産売却収入      | 4,713,500  | 2,046,000  | 2,667,500 |
| 付随事業・収益事業収入 | 89,317     | 54,107     | 35,210    |
| 受取利息・配当金収入  | 312,000    | 343,000    | △31,000   |
| 雑収入         | 222,925    | 202,388    | 20,537    |
| 借入金等収入      | 0          | 0          | 0         |
| 前受金収入       | 1,160,539  | 1,169,453  | △8,914    |
| その他の収入      | 1,430,208  | 1,258,793  | 171,415   |
| 資金収入調整勘定    | △1,329,161 | △3,098,260 | 1,769,099 |
| 前年度繰越支払資金   | 6,046,031  | 9,502,053  | -         |
| 収入の部合計      | 21,768,183 | 20,677,543 | 1,090,640 |
| 支出の部        |            |            |           |
| 人件費支出       | 4,542,125  | 4,400,529  | 141,596   |
| 教育研究経費支出    | 3,293,126  | 3,200,142  | 92,984    |
| 管理経費支出      | 588,345    | 524,470    | 63,875    |
| 借入金等利息支出    | 0          | 0          | 0         |
| 借入金等返済支出    | 0          | 0          | 0         |
| 施設関係支出      | 2,755,606  | 2,866,773  | △111,167  |
| 設備関係支出      | 282,975    | 240,011    | 42,964    |
| 資産運用支出      | 4,613,773  | 3,293,949  | 1,319,824 |
| その他の支出      | 35,000     | 131,397    | △96,397   |
| [予備費]       | 10,000     | 10,000     | 0         |
| 資金支出調整勘定    | △35,000    | △35,759    | 759       |
| 翌年度繰越支払資金   | 5,682,233  | 6,046,031  | △363,798  |
| 支出の部合計      | 21,768,183 | 20,677,543 | 1,090,640 |

2025年度 決算書概要

2026年度 予算書概要

学校法人東京経済大学の2025年度（令和7年度）の事業報告と決算が6月11日開催の理事会において承認され、確定いたしました。また、2026年度（令和8年度）の事業計画と予算は3月19日開催の理事会において決定しています。2025年度決算書概要および2026年度予算書概要を掲載いたしますのでご覧ください。なお、2025年度事業報告書および2026年度事業計画は東京経済大学公式サイトに掲載しておりますのでそちらをご覧ください。

2025年度収支決算

貸借対照表

2026年3月31日（単位:円）

| 科目         | 本年度末             | 前年度末             | 増減              |
|------------|------------------|------------------|-----------------|
| 資産の部       |                  |                  |                 |
| 固定資産       | 40,721,519,148   | 38,435,535,624   | 2,285,983,524   |
| (有形固定資産)   | (19,563,323,744) | (17,279,147,165) | (2,284,176,579) |
| (特定資産)     | (8,854,166,283)  | (9,781,087,567)  | (△926,921,284)  |
| (その他の固定資産) | (12,304,029,121) | (11,375,300,892) | (928,728,229)   |
| 流動資産       | 6,713,158,387    | 9,558,092,165    | △2,844,933,778  |
| 資産の部合計     | 47,434,677,535   | 47,993,627,789   | △558,950,254    |

|        |               |               |                |
|--------|---------------|---------------|----------------|
| 負債の部   |               |               |                |
| 固定負債   | 2,912,329,044 | 2,897,584,588 | 14,744,456     |
| 流動負債   | 1,714,735,653 | 3,120,465,217 | △1,405,729,564 |
| 負債の部合計 | 4,627,064,697 | 6,018,049,805 | △1,390,985,108 |

|              |                |                |                |
|--------------|----------------|----------------|----------------|
| 純資産の部        |                |                |                |
| 基本金          | 43,585,083,457 | 41,748,932,521 | 1,836,150,936  |
| 第1号基本金       | 37,179,750,945 | 34,402,215,330 | 2,777,535,615  |
| 第2号基本金       | 1,060,974,414  | 2,033,814,414  | △972,840,000   |
| 第3号基本金       | 4,818,358,098  | 4,786,902,777  | 31,455,321     |
| 第4号基本金       | 526,000,000    | 526,000,000    | 0              |
| 繰越収支差額       | △777,470,619   | 226,645,463    | △1,004,116,082 |
| 純資産の部合計      | 42,807,612,838 | 41,975,577,984 | 832,034,854    |
| 負債および純資産の部合計 | 47,434,677,535 | 47,993,627,789 | △558,950,254   |

資金収支計算書

2025年4月1日から2026年3月31日まで（単位:円）

| 科目          | 予算             | 決算             | 差異           |
|-------------|----------------|----------------|--------------|
| 収入の部        |                |                |              |
| 学生生徒等納付金収入  | 7,426,599,000  | 7,425,169,500  | 1,429,500    |
| 手数料収入       | 243,135,000    | 280,275,820    | △37,140,820  |
| 寄付金収入       | 100,915,000    | 112,993,263    | △12,078,263  |
| 補助金収入       | 1,429,360,000  | 1,430,080,993  | △720,993     |
| 資産売却収入      | 2,046,000,000  | 2,182,452,492  | △136,452,492 |
| 付随事業・収益事業収入 | 54,107,000     | 54,395,250     | △288,250     |
| 受取利息・配当金収入  | 343,000,000    | 368,447,898    | △25,447,898  |
| 雑収入         | 202,388,000    | 241,848,386    | △39,460,386  |
| 借入金等収入      | 0              | 0              | 0            |
| 前受金収入       | 1,169,453,000  | 1,043,630,172  | 125,822,828  |
| その他の収入      | 1,258,793,000  | 1,313,272,599  | △54,479,599  |
| 資金収入調整勘定    | △3,098,260,000 | △3,105,418,466 | 7,158,466    |
| 前年度繰越支払資金   | 9,502,053,000  | 9,502,053,397  | -            |
| 収入の部合計      | 20,677,543,000 | 20,849,201,304 | △171,658,304 |

|           |                |                |              |
|-----------|----------------|----------------|--------------|
| 支出の部      |                |                |              |
| 人件費支出     | 4,410,529,000  | 4,431,463,669  | △20,934,669  |
| 教育研究経費支出  | 3,200,142,000  | 3,090,174,290  | 109,967,710  |
| 管理経費支出    | 524,470,000    | 575,248,566    | △50,778,566  |
| 借入金等利息支出  | 0              | 0              | 0            |
| 借入金等返済支出  | 0              | 0              | 0            |
| 施設関係支出    | 2,866,773,000  | 2,822,101,071  | 44,671,929   |
| 設備関係支出    | 240,011,000    | 239,595,306    | 415,694      |
| 資産運用支出    | 3,293,949,000  | 3,310,413,508  | △16,464,508  |
| その他の支出    | 131,397,000    | 133,568,652    | △2,151,652   |
| [予備費]     | (10,000,000)   |                |              |
|           | 0              | -              | 0            |
| 資金支出調整勘定  | △35,759,000    | △117,408,286   | 81,649,286   |
| 翌年度繰越支払資金 | 6,046,031,000  | 6,364,064,528  | △318,033,528 |
| 支出の部合計    | 20,677,543,000 | 20,849,201,304 | △171,658,304 |

事業活動収支計算書

2025年4月1日から2026年3月31日まで（単位:円）

|        | 科目       | 予算       | 決算            | 差異            |              |
|--------|----------|----------|---------------|---------------|--------------|
| 教育活動収支 | 収入事業の活動  | 学生生徒等納付金 | 7,426,599,000 | 7,425,169,500 | 1,429,500    |
|        |          | 手数料      | 243,135,000   | 280,275,820   | △37,140,820  |
|        |          | 寄付金      | 44,720,000    | 56,691,681    | △11,971,681  |
|        |          | 経常費等補助金  | 1,429,360,000 | 1,430,080,993 | △720,993     |
|        |          | 付随事業収入   | 54,107,000    | 54,395,250    | △288,250     |
|        |          | 雑収入      | 202,388,000   | 241,848,386   | △39,460,386  |
|        |          | 教育活動収入計  | 9,400,309,000 | 9,488,461,630 | △88,152,630  |
|        | 支出事業の活動  | 人件費      | 4,464,989,000 | 4,441,333,597 | 23,655,403   |
|        |          | 教育研究経費   | 3,937,559,000 | 3,827,040,879 | 110,518,121  |
|        |          | 管理経費     | 537,644,000   | 588,280,051   | △50,636,051  |
|        |          | 徴収不能額等   | 0             | 0             | 0            |
|        |          | 教育活動支出計  | 8,940,192,000 | 8,856,654,527 | 83,537,473   |
|        | 教育活動収支差額 |          | 460,117,000   | 631,807,103   | △171,690,103 |

|         |            |             |             |               |              |
|---------|------------|-------------|-------------|---------------|--------------|
| 教育活動外収支 | 収事業入業の活動部動 | 受取利息・配当金    | 343,000,000 | 368,447,898   | △25,447,898  |
|         |            | その他の教育活動外収入 | 0           | 0             | 0            |
|         |            | 教育活動外収入計    | 343,000,000 | 368,447,898   | △25,447,898  |
|         | 支事業出業の活動部動 | 借入金等利息      | 0           | 0             | 0            |
|         |            | その他の教育活動外支出 | 0           | 0             | 0            |
|         |            | 教育活動外支出計    | 0           | 0             | 0            |
|         |            | 教育活動外収支差額   | 343,000,000 | 368,447,898   | △25,447,898  |
|         |            | 経常収支差額      | 803,117,000 | 1,000,255,001 | △197,138,001 |

|      |            |          |              |              |             |
|------|------------|----------|--------------|--------------|-------------|
| 特別収支 | 収事業入業の活動部動 | 資産売却差額   | 110,456,000  | 128,469,429  | △18,013,429 |
|      |            | その他の特別収入 | 58,195,000   | 62,582,615   | △4,387,615  |
|      |            | 特別収入計    | 168,651,000  | 191,052,044  | △22,401,044 |
|      | 支事業出業の活動部動 | 資産処分差額   | 20,414,000   | 33,858,265   | △13,444,265 |
|      |            | その他の特別支出 | 337,751,000  | 325,413,926  | 12,337,074  |
|      |            | 特別支出計    | 358,165,000  | 359,272,191  | △1,107,191  |
|      |            | 特別収支差額   | △189,514,000 | △168,220,147 | △21,293,853 |

|               |  |                |                |              |
|---------------|--|----------------|----------------|--------------|
| [予備費]         |  | (10,000,000)   |                |              |
|               |  | 0              | -              | 0            |
| 基本金組入前当年度収支差額 |  | 613,603,000    | 832,034,854    | △218,431,854 |
| 基本金組入額合計      |  | △1,865,478,000 | △1,836,150,936 | △29,327,064  |
| 当年度収支差額       |  | △1,251,875,000 | △1,004,116,082 | △247,758,918 |
| 前年度繰越収支差額     |  | 226,646,000    | 226,645,463    | 537          |
| 基本金取崩額        |  | 0              | 0              | 0            |
| 翌年度繰越収支差額     |  | △1,025,229,000 | △777,470,619   | △247,758,381 |
| (参考)          |  |                |                |              |
| 事業活動収入計       |  | 9,911,960,000  | 10,047,961,572 | △136,001,572 |
| 事業活動支出計       |  | 9,298,357,000  | 9,215,926,718  | 82,430,282   |

寄付者ご芳名

学生支援奨学募金  
大学奨学基金寄付金

東京経済大学へのご寄付について

東京経済大学へのご寄付につきましては、卒業生、ご父母をはじめ学内外の多くの皆様からご支援ご協力をいただいております。皆様のご厚情に深く感謝申し上げます。今回は前号掲載以降から、三月末日までにご寄付をいただきました皆様のご芳名をご紹介します。なお、ご本人様のご了解をいただいた方のご芳名を掲載させていただいております。引き続き「進一層」募金」へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

二〇二六年八月

学校法人 東京経済大学 理事長 八木 茂樹  
東京経済大学 学 長 小川 英治

東京経済大学へのご寄付をお考えの方は  
こちらからお願いいたします。

<https://fundexapp.jp/tku/entry.php>



本学が募集している各基金の詳細については、  
東京経済大学公式サイトをご覧ください。

<https://www.tku.ac.jp/tku/kifu/shogaku.html>



各部・サークルへのご寄付をお考えの方 インターネットからのクレジット決済による寄付をお考えの方は、上記二次元コードより本学寄付金公式サイトのご寄付目的「スポーツ・文化振興募金」を選択いただき、下段の支援先欄からご希望の部・サークル名を選択のうえ、寄付方法・寄付金額を選択してください(任意金額の入力可)。

振込みによるご寄付をお考えの方 ゆうちょ銀行(郵便局)からお振込みをご希望の方は、校友センター募金室までご連絡ください。専用振込用紙をお送りいたします。  
**ゆうちょ銀行** **口座番号** 00180-2-263663 **加入者名** 学校法人東京経済大学寄付金口  
※払込取扱票の通信欄に寄付目的(スポーツ・文化振興募金の場合は支援先のサークル名も)をご記載ください。  
銀行から直接お振込みをされる方は、校友センター募金室までご連絡ください。

寄付金に関するお問い合わせはこちらまでお願いいたします 総合企画部校友センター募金室 **TEL** 042-328-6100 **E-mail** bokin@s.tku.ac.jp

## スポーツ・文化振興募金 における アメリカンフットボール部への寄付の活用についてご紹介

アメリカンフットボール部主将 上田浩暉(経営学部4年)

アメリカンフットボール部では、皆様からいただいた寄付金を主にヘルメットやショルダーパッドなどの防具の購入・整備費用として活用させていただいております。アメフトは安全管理が非常に重要な競技であり、部員が安心して競技に取り組める環境づくりに大変役立っております。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

現在は新入生10名を迎え、総勢40名で活動しております。アメフトは個々の能力だけでなく、戦略やチームワークが勝敗を大きく左右する競技です。そのため、日々の練習ではアウトブツトを重視し、実戦形式での合同練習を積極的に行うことで、技術力と判断力の向上に努めています。

今年度のチームスローガンは「Dominate」です。試合の主導権を握り続け、相手を圧倒できるチームになるという決意を込めています。4年生を中心に部員全員が一丸となり、関東学生リーグ2部昇格を目標に挑戦を続けてまいります。  
今後とも温かいご声援・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



アメリカンフットボール部  
FALCONSのSNSはこちら



## 寄付者ご芳名

安城記念奨学基金寄付金

昭和40年卒同期会

キャンパス整備募金

研究奨励募金  
研究奨励基金寄付金

スポーツ振興基金寄付金

国際交流奨学基金寄付金

アドバンストプログラム  
推進基金寄付金

東経の森・水と緑の募金

硬式野球部

スポーツ・文化振興募金  
◎体育会  
端艇部

修学支援特別奨学寄付金

ゼミナール等支援募金

ワンダーフォーゲル部

バレーボール部

バスケットボール部

柔道部

卓球部

剣道部

陸上競技部

サイクリング愛好会

グリークラブ

◎文化会  
演劇研究会

ラクロス部

射撃部

軟式野球部

サッカー部

ソフトテニス部

ヨット部

バドミントン部

合気道部

スキー部

アメリカンフットボール部

現代法学部

経営学部

経済学部  
教育振興資金

現物寄付

大倉学芸振興会への寄付

首都圏以外の出身学生支援募金

PMA

税法研究会

参加費  
無料

## 2026 東京経済大学・葵友会秋季懇親会

今年も開催! 東京経済大学に集い、世代を超え「会う」「語らう」「懐かしむ」イベントです。  
皆様のご来場を心よりお待ちしております。

2026年10月31日(土) 15:00~(受付開始14:30) 東京経済大学 国分寺キャンパス100周年記念館にて

申込方法

同封のチラシをご参照のうえ  
必ず**参加申し込み**を行ってください。  
WEB・郵送・メールの3つの申込方法があります。

WEB申し込み  
(Googleフォーム)



来場記念品

東京経済大学  
オリジナルグッズ  
(会場での配布のみ)

お問い合わせ  
(月~金 9:00~11:30 13:00~17:00)

東京経済大学校友センター・葵友会  
(国分寺キャンパス 大倉喜八郎 進一層館 B1階)  
TEL: 042-328-8033 / 042-328-6100  
E-mail: tokeikiyukai@s.tku.ac.jp



## 前日銀総裁・黒田東彦氏らを招き、 日本経済のゆくえを議論 小川学長就任記念シンポジウムを開催

小川英治学長の就任を記念したシンポジウム「2026年の日本経済—金利・為替・成長のゆくえ」が、2026年5月13日(水)、日経ホールで開催されました。当日は、前日本銀行総裁の黒田東彦氏、ANAホールディングス株式会社の磯根秀和氏、経済アナリストの馬淵磨理子氏が登壇し、金利・為替・成長をめぐる日本経済の展望について議論しました。

黒田氏による金融政策や為替をめぐる発言はシンポジウム開催後に多くのメディアでも紹介され、経済の現状と今後を考える機会となりました。



前日本銀行総裁の黒田東彦氏



## 満足度99.7%の新入生イベント 学生交流サポーターが企画・運営

学生交流サポーターが、2026年3月から4月にかけて、新入生を対象とした交流イベントを開催しました。

学生交流サポーターは、事前研修を受けながら準備を進め、「編入生交流会」「新入生ウェルカム・パーティー」「テーマ別交流会」などを企画・運営。「新入生ウェルカム・パーティー」では、参加者満足度99.7%を記録しました。

昨年参加した学生が今年は運営に携わるなど、学生同士が支え合うピア・サポートの輪が広がっています。



## 【端艇部】全国の舞台で躍進 眞塩杏海さんが女子シングルスカル8位

東京経済大学端艇部の眞塩杏海さん(経営1年)が、2026年5月8日(金)～10日(日)に戸田公園漕艇場で開催された「2026年ローイング日本代表候補選手選考大会(U19の部)」女子シングルスカル部門に出場し、全国総合8位となりました。

眞塩さんは、水上での2000mタイムトライアルや予選を突破し、B決勝で3着。全国の舞台で高い実戦力を示しました。



## 母校で温かな拍手 “荒川ケンタウロス”東経大ライブ 「ホームカミング」を開催

東京経済大学地域連携センターとこくフェス実行委員会は2026年5月9日(土)、共同主催公演として、“荒川ケンタウロス”東経大ライブ「ホームカミング」を国分寺キャンパス4号館で開催しました。

荒川ケンタウロスは、国分寺市観光大使を務める5人組ロックバンドで、メンバーのうち4人が東京経済大学の卒業生です。

当日は幅広い世代の来場者が集まり、母校と地域へのつながりを感じさせる、なごやかな公演となりました。



## 東京経済大学報 第59巻第1号(夏号)アンケート

アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で  
10名様に東経大グッズをプレゼントさせていただきます。  
右の二次元コードから、ぜひご回答をお願いします。



## 本学卒業生で写真家・エッセイストのハービー・山口氏(1973年卒)が表紙写真を担当! 大学の今を皆さまにお届けします。

### 撮影後記

ハービー・山口氏より

長い歴史の中には様々な物語りが生まれる。登場していただいたグリークラブは、発足から約70年、存続の危機に瀕したことがあった。議論の末、従来の男声合唱団から男女合唱団という形式に舵をとり、女性を迎え入れたことでこの危機を乗り越えた。背景に写っている葵陵会館は1976年3月に竣工し、学生食堂や人々が交わるスペース、懇親会などに使われ親しまれた建物だ。だが、今年の夏休み後に閉鎖され、姿を消すことになっている。活き活きとした表情の新生グリークラブの未来と、静かに去っていく寂しげな建物の歴史が織りなすキャンパスの物語。

